

アブストラクト：

本技術報告書は、現在の oneM2M システムが車両領域においていかに適用されるかを検証すると共に、将来の oneM2M リリースが本領域向けにサポートするであろう拡張機能の検討を含む。

目次：

## 1 章 所掌範囲（目的）

本文書は、現在の oneM2M システムが車両領域においていかに適用されるかを検証すると共に、将来の oneM2M リリースが本領域向けにサポートするであろう拡張機能の検討を含む。また本文書は、車両領域のユースケースやそれらに付随する潜在的な要求条件も分析する。

## 2 章 引用文献

## 3 章 定義、略語と頭字語

## 4 章 表記法

## 5 章 車両領域の概要

車両領域の概観、技術動向/各種団体における標準化動向、oneM2M のフォーカス、および自動運転のレベルについて記載。

## 6 章 車両領域ユースケース

以下のユースケースを記述：車両診断&メンテナンス、リモートメンテナンス、交通事故情報収集、フリートマネジメント、ETC サービス、タクシー広告、車両データサービス、自動運転、車両データワイプサービス、ジオフェンスに基づく車両管理、車両 ECU 向けのセキュアな OTA ファームウェア更新、自動車/自転車シェアサービス、スマートパーキング、レジストレーション不要の車両情報広報、車両位置情報プライバシー保護、車両分野サービスの継続性、最適速度推奨、自動運転。

## 7 章 潜在的な要求条件の概要

本技術レポートに集められたユースケースから導かれる 71 の潜在的な要求条件を記述。

## 8 章 ハイレベルアーキテクチャ

ユースケースのまとめ、四つのハイレベルアーキテクチャタイプとユースケースのマッピングを記述。

## 9 章 車両領域適用に向けた課題

以下の課題を記述：地理位置情報、処理遅延、レジストレーション管理、セキュリティ、クロスリソースへの加入、加入者データアグリゲーション。

## 10 章 課題の解決方法

以下の解決方法を記述：AE 接続情報の維持-IN-CSE が全 CSE へ通知、AE 接続情報の維持-IN-CSE が影響のある CSE へ通知、クロスリソースへの加入、加入者データアグリゲーション、セキュアなチャネルの確立、ハードウェアセキュリティ部材。

## 付則 A（情報）車両領域向け oneM2M データモデル

自動運転への IoT 適用を目指す欧州の大規模プロジェクト-AUTOPILOT-の紹介。

Abstract:

This oneM2M Technical Report examines how the current oneM2M System can be used in the Vehicular Domain and includes a study of advanced features which the future oneM2M release(s) could support for this vertical domain.

Scope:

The present document examines how the current oneM2M System can be used in the Vehicular Domain and includes a study of advanced features which the future oneM2M release(s) could support for this vertical domain. The present document also analyses use cases and the potential requirements pertaining to the use cases with regard to vehicular domain.